Viva Greens

グリーンズ千葉ニュース　No.16

―地球規模で考え、
活動は足元から―

2019年2月 冬号

―Contents―

P1　「ミートフリーマンデー」を始めてみませんか？
P2　種はまだまだ、大丈夫
P3　お米を食べる！小麦は危ない？
P4～6【種子法学習会　タネは誰のもの
～「種子法」廃止で、食はどう変わるのか】参加者からの声
コラム「風に吹かれて」
P7　続々と制定されだした都道府県単位の条例
P8　人を殺す道には、抗いたい

「ミートフリーマンデー」を始めてみませんか？

会津　素子（成田市議会議員）

緑の党「動物と人の幸せプロジェクトチーム」では、「ミートフリーマンデー（以下、菜食月曜日）を勧めています。これは、ポール・マッカートニーさんが提唱し、「毎週月曜日だけ、動物性食品を摂らずに過ごしてみよう」という運動で、世界中に広がっています。

欧米では多くの自治体や学校が「菜食月曜日」や「菜食木曜日」を導入し、日本でも都庁と内閣府の食堂で「菜食月曜日」「菜食金曜日」が始まっています。ノルウェーでは軍隊が「菜食月曜日」を導入！　また、私が参加した緑の党世界大会（2017年）でも登壇者が「菜食月曜日を各地で行おう」と発言し、会場では沢山の菜食主義者に出会いました。

それではなぜ私たちは「菜食」を勧めるのでしょうか。理由は4つあります。

① 命のため・・・肉食を減らせば当然殺される命は減ります。またほとんどの家畜が「動物福祉」とはほど遠い環境で飼育されていることも問題です。

② 健康のため・・・肉食から菜食に切り替えることで病気のリスクが減ると言われています。詳しくは、私たちも上映した「フォークス・オーバー・ナイブズ　～命を救う食卓革命」をご覧ください。

③ 環境のため・・・家畜を飼育するには大量の水と穀物が必要です。また、肉の生産過程ではメタンなど多くの温室効果ガスが発生します。2008年、デブア国連事務局長は「地球温暖化防止に対する最善策は、全ての人が菜食になること」と発言しました。

「菜食」というと「サラダしか食べないの？」と聞かれますが、最近では大豆を原料とした「もどき肉」も簡単に手に入ります。唐揚げにすると、本当の肉のように食べ応えがありますよ！　また私たちを含めて様々な団体がミートフリーイベントを開催しています。ご一緒に、週に1日から美味しく楽しいミートフリーを始めてみませんか？

種はまだまだ、大丈夫

吉田 あち（流山　真澄農園）

ここのところ、急に「種取り」の話が騒がしくなってきた。種子法が改正され、大企業が多くの種を支配する世の中がすぐに訪れそうで、不安は解るが焦ることはない。やれ不耕起だ、自然農法だ、とのことも同じである。どうも日本人は細かいことが好きらしい。ともかく政府と行政はモンサントが大好きだ、どんなことをしても遺伝子組み換え食品には絶対に反対しない姿勢は明らか、種子法改正もその一環だ。今大事なことは、いつまでも有機農家が増えない現状。そして毎年30%も使用量が増えている除草剤問題が最優先事項だ。このままだと日本は、自然環境に対する国民の意識という面では凄い後進国になる。現在の状況は悲惨だ。

確かに「種取り」は大切で、有機農研では30年前から品種交換会が開かれているし、世界中の有機農家におしみなく貢献されたEM菌（有用微生物群）農法の生みの親である比嘉照夫さんの「種も使い続ければ、その畑に合ったものに育てることができる」との教えは胸を打つ。しかし現実的には、少量多品目の農家では完全に無理である。ただでさえモザイクのような畑を耕し、効率良く栽培するだけでも大変で、そこに一部、種取り用の区域が幾つもあったらとても邪魔である。

うちでも年間に育てる野菜は200種類以上だ、種を常に買い揃えるだけでも大変。まして市内の種屋はつぶれてしまい、隣町に買い出しに行くだけでも1時間以上かかる。大きな種苗メーカーでは、トマトだけでも10種類以上はある。どのメーカーのどれを選ぶかは、ある意味で賭けだ。育ててみないとわからない、それも1年に一度しかできない。種屋さんは色んな情報を持っているので、アドバイスはありがたい。自分の畑、自分の栽培方法に適した種にめぐりあうまででも何年もかかる。仲間で販売グループを作り、農家1軒あたりが作る品種を減らせれば、種とりもできるであろう。

うちでも、数種類の米と里芋、落花生や小豆、ササゲにヤーコン種を残して次の作に使っているが、保存が悪く、ダメになってしまうこともある。資金的にも時間的にも余裕が出て、もっと技術も進歩したら少しずつ固定種を試してみたい。今年は百姓25年目、そして還暦を迎える。だいぶよろよろしてきたぞ、でも毎日新しい知恵を学べるよ。いい仕事だよ。

米の種蒔き（プール育苗）

昨年の籾種を塩水で選別し、60℃の風呂で病原菌を殺菌。
適度な温度を与え、少し芽が出たところで乾燥させてから、一度
冷蔵庫で寒さにさらしてから、箱苗を作り、プールで育苗する。

お米を食べる！小麦は危ない？

武笠 紀子（松戸市）

毎年、『生活クラブ生協（松戸）』で松戸市消費生活展に参加してます。昨年選んだテーマは、「お米を食べよう！」。日本はお米の国だと思われているのに、実は一人当りの消費量は世界で51番目。そこで、来場者に「朝ごはんに何を食べますか？」とシールアンケートを実施。参加482名。ご飯231名、パン200名、その他31名、食べない20名となりました。お米は自給率95％（市販米ほぼ100％）なのに、小麦は14％でほとんどが輸入品。お米は価格も安くて、平均的なもので
お茶碗4杯分が約100円。また、グルテン（小麦に多い）が健康に良くないという研究結果もあるので、グルテンフリーの食事にはお米が一番！ということも知らせました。

ところが、『小麦』に新たな問題があるというのです。生活クラブ生協千葉が昨年開催した、印鑰智哉さんの「遺伝子組み換え問題の講演会」で聞いた衝撃的な話、「グリホサート」問題。『ラウンドアップ』『ネコソギ』他いろいろな商品名で、ホームセンターや100円ショップで売られている除草剤の成分です。「グリホサート」で枯れない「遺伝子組み換え」のダイズやナタネがアメリカ等で栽培されていて、日本に多量に輸入されていることは知っていたのですが、遺伝子組み換えでない小麦にも、収穫前にグリホサートを散布すると枯れて楽々と収穫でき、その後も草が生えず便利だというのです。小麦は製粉される前に後にも洗いませんから、小麦粉に多量のグリホサートが残留している可能性があるのです。国産小麦はほとんどが、うどん・そうめん等麺類に使われるので、パンに使われる小麦粉の99％は輸入品だとか。パン好きの私には非常にショック！

「グリホサート」は、これまで人体には影響がないとされてきましたが、2015年WHOの専門機関により「発ガン性あり」と発表され、昨年8月アメリカでの裁判ではガンの原因と認められました。また、輸入品だけの問題でなく、2017年の12月に国内の残留基準が緩和されていて、国産品と言えども安全とはかぎらないのです。今年になって、日本消費者連盟の調査で市販の小麦粉から検出されたそうです。個人的には「お米を食べる」ことですが、グリホサート禁止を求める活動を始めなくてはいけないようです。「ネオニコ問題」も終わっていません。もう、農薬は止めよう！

● グリーンズ千葉 総会
3月31日（日） 午後1時～午後4時
船橋勤労センター 第一講習室

● 夏合宿 7月27日(土)・28日(日)
鴨川自然王国

種子法学習会「タネは誰のもの～「種子法」廃止で、日本の食はどう変わるのか」

１月20日午後、松戸市内で、グリーンズ千葉主催の学習会を開催しました。講師の印鑰智哉（いんやくともや）さんの熱のこもった講演で、種子法廃止がもたらす日本の食について危機感を持ちました。参加者は２３名。４名の方に、感想を寄せていただきました。

タネは誰のもの？地球は微生物の星

増田 薫（松戸市議会議員）

とても奥の深いお話でした。「地球に生命が誕生し今に至るが、誰がこれを引き継いでいくのだろうか？この地球は"微生物の星"である。あらゆる生命の基盤を作ってきた。窒素が無ければ植物は生きていかれない。窒素は植物自らが作れず微生物が供給してくれるもの。地球はまさに微生物の星なのである。光合成、葉緑体もミトコンドリアも微生物だったと言われ、それらを取り込むことで私たちは生きてきた。」（当日のメモ書きからの引用）

この勉強会では、種子法廃止の問題を通して「土中の微生物」がもたらす壮大で素晴らしい営みを初めて知り、改めて私たちが子孫に残すべき環境を考えるきっかけになりました。

昨年4月、種子法が廃止されました。全てはTPPに連動していて、その動きはすでに20年も前から始まっており、日本はその前段のユポフ条約にすでに批准、今は最終段階に入っているというのです。TPPには漏れなく"モンサント法案"がセットになってついてきます。決められたタネ以外買えず使えず、違反したら法外な違約金を課せられる、まさにタネを支配するのが"モンサント法案"です。しかし、その本当のねらいは農薬を買わせることなのでは…？

廃止された種子法では、タネを管理する行政の責任を定めていましたが、種子法廃止後に成立した種苗法には行政の責任が明記されていません。まさに農業も「個人の責任」とされ、これでは子孫への責任を取りきれるはずがありません。

私の住む矢切では、85haの耕地の約3割が潰される危機に直面していますが、私たちは子孫のために何を残すべきか、もっと広い視野で見ていかなければならないのではないか？と、勉強会を通して、より強く思うようになりました。

1/20 学習会当日の様子

カネ（マネー支配）からタネを守ろう！

小林 孝信（松戸市）

「モンサント」の響きはGE、WH、東電などに近く、かつて日本支社前の抗議集会にも参加したことがある。今回の講演は生態系の基本、種支配の歴史的経緯と背景、日本政府の対応の愚劣さなどがコンパクトに紹介された。QAでも的確な指摘で参考になることが多かったです。

戦争の中で基幹企業（化学）が拡大してきたこと、大企業が政府と結託して市場支配を狙うことなど原発の構造と酷似しています。そして、発想の根に「今だけ、自分だけ、カネだけ」がある点も同様です。

ひどいのは安倍自公政権で、「企業活動の最もしやすい国」しか念頭になく、カネは目に入ってもヒトの存在は見えていません。伝統種子を守る主要農作物種子法を廃止し、独占支配を容易にしました。マスメディアが充分に伝えていないのも問題です。ただ世界では市民グループだけではなく、多くの政府でも巨大企業の種支配に抗して様々な取り組みが展開され始め、それは希望です。

遅れてしまった日本で、私たち市民は、安心安全を求める消費者としてのみならず、人権運動としてもタネを守る運動を展開するべきでしょう。タネの独占支配は結局、危険な食物を強要され好みの食材も選べず、種としての「人間」にとって一番大切な自由への侵害なのですから。

生物多様性は、生命維持の源泉

鈴木 一正（松戸市）

46億年前に誕生したこの地球が、どうやって人間が生きられる星になったのか？生命の起源（微生物）からのダイナミックな話の展開に最初から引きつけられた。地球と宇宙の大きなサイクルを通して生み出される生命エネルギーが、この大地という土壌の中にあったとは…

しかし、世界からこの土壌がなくなる危機が迫っているという。原因は森林伐採、そして化学企業が農業生産のあり方を支配する「緑の革命」とのこと。種子+化学肥料+農薬のセットとして売り込む工業型農業、遺伝子組み換え農業など農業の工業化にともなって、一部の企業の独占化が進んでいるとのこと。生命の源である豊かな土壌は世界各地から失われ、多様な農産物生産が画一化されてゆく。世界の土壌が傷つき、失われていくということは、我々人間の腸も傷ついていくことにつながる。このように農薬の土壌細菌と我々の腸内細菌への影響も心配されている。

こういう中、今日では、生物多様性は生命維持の源泉であるという認識が世界の潮流となりつつあり、有機農法が飛躍的に増加している。また、土壌を回復させることで、大気中のCO_2を土壌の中に吸着させることができるという考えから、気候変動への対応も重視されている。こうした世界的潮流の中、日本政府は多国籍企業優先の政策をとり、「世界一、民間企業が活躍しやすい国づくり」を目指している。有機農法が世界的に進む中、米作り等日本の農業の行く末が心配である。

地球と健康を守るために、有機農業を広めていこうと決心

梨本　忠彦（長野県 飯綱町）

1月20日に開催された「タネは誰のもの？～“種子法”廃止で、日本の食はどう変わるのか」、印鑰さんの講演では地球の土を守る微生物の働きから始まって非常にわかりやすく話していただきました。

昨年の種子法廃止で民間企業に種子の開発技術を開放するため今後は海外の遺伝子組み換えメーカーが種子、化学肥料、農薬の3点セットで日本の農業を支配してくるため、農薬漬けで土地は荒れ、健康悪化の原因になって行く可能性が強い。また企業の提供する種子の値段は徐々に高騰、農業離れも進み農業人口の減少に拍車がかかって行くことも指摘されました。

今後、種子法の廃止で在来種が危機に陥ってくるため、これを守るには、国ではだめで都道府県レベルで在来種保存条例を作る等で戦う必要があることを指摘されました。すでに海外では大企業の農薬漬けの農業に対抗して有機農業を広げているようです。米国の消費者でさえ野菜は有機野菜が主流になっていて、平均寿命が70歳台後半に下がって来ており急速に健康志向が高まっているようです。

一方、日本は最近ゲノム編集の野菜の輸入を解禁したり、農薬の基準を緩和したり世界と逆行した動きになっているとのこと。安倍政権の企業重視の姿勢が見られます。日本でも有機農業を拡大して行くことがこうした流れに対するせめてもの抵抗かもしれません。地球と健康を守るために有機農業を広めて行こうと決心がついて、田舎への帰途につきました。

コラム「風に吹かれて」

本の紹介

柘植 扶佐子

「NORTH 北へ―アパラチアン・トレイルを踏破して見つけた僕の道」

スコット・ジュレク著作　栗木さつき 訳

アパラチアン・トレイル（合衆国東部をアパラチアン山脈に沿って南北に縦走する、2189マイル、約3500キロの長距離自然歩道）を、南から北へ向かってひたすら走り続ける46日8時間7分にわたる激闘を描いた極限のドラマ。

老人となった自分の日々の暮らしに引寄せてみたら、決して遠い話しでないと感じた。日々の天候、体調、食事、人との関わり、情報などの中で生きている。（老人の暮らしは若者がアパラチアン山脈を走るくらい体力的には大変なのだ。）
インターネットやAIなど科学技術が進歩しても、人間は、五体、五感、スピリットをフル活用することで乗り越えられる、そんな力をくれる一冊です。

NHK出版　2000円

続々と制定されだした都道府県単位の条例

林　重孝（日本有機農業研究会）

種子法は正確には「主要農産物種子法」といい、主要農産物とは米、麦、大豆を指す。1952年にサンフランシスコ講和条約が締結され、日本の主権が回復した翌月に、食料不足の中、増産のために安定的に優良な種子を農家に供給できるように作られた法律である。2016年、政府の規制改革推進会議で議論され、2017年3月廃止する法律が成立し、2018年4月1日廃止された。廃止の理由は「役割を終えた」「民間と連携し国際競争力つけるべき」などで、民間参入を促す狙いがある。

● 要綱ではなく条例の制定を！

これに対し危機感を抱き、2017年7月「日本の種を守る会」が設立され、再度法案の復活を求め、さらに都道府県単位で制定できるように学習会や署名活動、情報交換などをしている。

千葉県では国の種子法廃止に対し独自の「千葉県主要農産物種子対策要綱」（案）を公表しパブコメを求め、一部手直しし、廃止の日の同日に施行し、これまで通り種子の安定供給ができるようになった。しかし問題点がある。一つは条例ではなく要綱ということである。要綱は行政の内部規定で議会の審議もなく簡単に成立できるが、逆に簡単に廃止できる。議会の審議を経て決議し条例とすべきであろう。もう一つは条文にある奨励品種について民間で開発した品種を取り扱う旨が記載されている。パブコメの中で「種子の生産を民間に委託し、活性化を図ると遺伝子組換えの普及を懸念される」の意見が出され、県は「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」によって規制されているので十分としているが、この法律が廃止される可能性がないとは言えない。

一方、2017年種苗法の施行規則の変更で自家増殖（採種）禁止の種類が改正前に比べて289種（野菜26種を含む）増え、これ以降も続々追加される予定だ。これも種子法廃止と同じ動きで、食料の基本である種をグローバルの中に入れていこうという考え方である。

2018年10月、私も委員の一人として「種子を守る千葉県条例制定求める実行委員会」が設立され、12月の議会での請願提出を目指している。他の都道府県の動きでは新潟、兵庫、埼玉（在来種生産及び維持についても記載）で2018年4月制定、次いで富山、山形で制定、北海道（大豆以外も豆やソバも記載）、長野、岐阜、宮崎で骨子案、素案が作成され施行予定、福岡、栃木でも条例制定を求める動きが出ている。

人を殺す道には、抗いたい

山田 洋子（柏市）

辺野古の埋立て承認撤回に、沖縄防衛局はあろうことか12月14日、私人として行政不服審査法に基づき土砂投入を強行しようとしていた。ところが台風で、土砂を積出す予定の塩川港を使えなくなった。「天は我らに味方したぞ!」の気分だった。

だが北上田毅氏（沖縄平和市民連絡会）が講演で、民間会社の琉球セメントの安和港を使うかもしれないと指摘していた。5日、安和港のベルトコンベアーを使ったが、直ぐに支障が起きた。沖縄県は数々の土砂投入の違法性に抗議をした。一時、台船への積出しが止まった。
しかし政府には沖縄に寄り添う気持ちなどあろうはずはない。コンベアーは又動かされた。

私は12月9日に辺野古に入った。10日の第1回目の座り込みを無事終え、第2回目11時35分の座り込みには最前列に座った。すると、いきなり両腕を掴まれた。せいぜい100メートル運ばれるのにも耐えられない程の痛さだった。骨を折られると感じた。柵の中で仲間が湿布を貼ってくれたが、翌々日には痛みに耐えられず、整形外科医を訪れ、全治2週間の診断を受けた。

私には高江、辺野古と座り込みの経験は多い。機動隊員の多くは顔馴染みである。何故こんなことになったのか考え続けた。本土各県警への機動隊派遣に関する監査請求の結果、辺野古の機動隊員の多くがウチナーンチュになったのだろう。彼等は迷いながら、悩みながら動いているのかも知れない。そこへ私の威丈高な物言いが彼にあのような行動を取らせたのかもしれない。

左腕をガードしながら15日まで座り込んだ。その日の午後6時30分から7時まで辺野古ゲート前でのキャンドルスタンドに加わり、通り行く車に基地建設阻止の大声を上げてきた。車からの反応が嬉しかった。

この滞在中、ゲート内の作業重機4台の鍵穴に接着剤が投入されていたとのニュースを聞いた。作業員もしくはゲート内の人間の仕業である。私たちはほくそ笑んだ。護岸から舌を出しただけのような埋め立ても、面積が拡がった。けれども政府が真摯に事実と向き合うならば、其のうちに工事は頓挫せざるをえなくなるだろう。人を生かす道ではない、人を殺す道には、抗いたい。

『グリーンズ千葉』は、千葉で「緑の社会」の実現をめざして活動します。「緑の社会」とは、全ての生命を大切にし、公正・平等・非暴力で、多様性を尊重し、みんなで政治に参加する持続可能な社会のことです。

271-0092 松戸市松戸1879-24　ほくとビル5F
Tel/Fax　047-360-6064
HP　http://greens-party-chiba.jimdo.com/

入会・カンパ募集中！！　**（郵便口座 00120-1-687008）会費 一口1000円（3口以上） サポーター1000円**